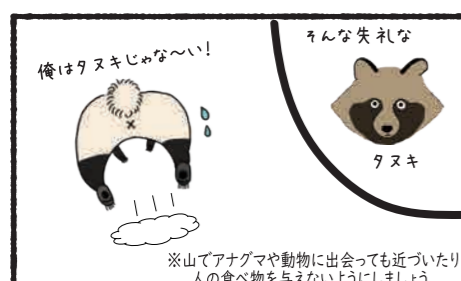
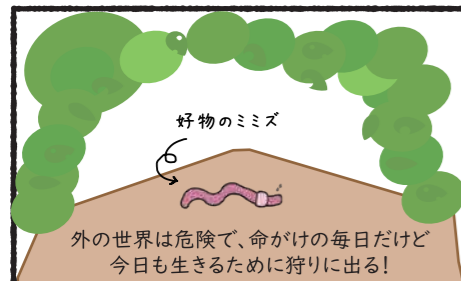


たかおさん

「アナグマの悩み」の巻

「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて配布しております。希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。



作・絵：おかだ

Twitterでふりかえる 高尾山ニュース!

高尾ビジターセンターのTwitter・Facebookをチェックしていただいているみなさま、いつもご覧いただきありがとうございます！ 山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。 2022年4月～6月の間のツイートから、注目のニュースをご紹介します。



真っ白な姿で薄暗い場所に咲く「ギンリョウソウ(銀竜草)」。とても人気な植物で、今年の高尾山ではたくさん確認されたため、注目を集めました!

解説員 コらむ vol.30

新緑を告げるお便り

みなさんは高尾山の森の、どの時期が一番好きですか？僕は、淡い緑に染まる森を歩くのが気持ちいいので、新緑の時期が好きです。高尾山では4月中旬から5月が新緑の時期です。 この新緑の時期になると活動を始めるオトシブミという昆虫がいます。オトシブミは幼虫が食べるための葉一枚を器用に巻き、その中に産卵します。この巻かれた葉は揺籃(ようらん)と呼ばれ、地面に切り落とされることがあります。これが、手紙を落としているように見えることから「落とし文」と名付けられました。 オトシブミは種類により葉を巻く植物が異なります。高尾山ではブナとイヌブナが他の木よりも少し早くに展開するため、この木の葉を巻くヒゲナガオトシブミやビロードアシナガオトシブミの揺籃が最初に見つかります。その後、他の木の葉の展開にあわせ、いろいろなオトシブミが活動を始めます。揺籃が見つかる近くの木を探すと、葉を巻いている最中のオトシブミを見つけることができます。この姿が見たくて登山道で地面や木々の葉に目を凝らして歩いていきます。 高尾山に通うようになってからは、オトシブミの「落とし文」が、高尾山に新緑の時期が来たことを教えてくれるお便りとなっています。今年も、たくさんのおトシブミに出会うことができます。ぜひ、高尾山でオトシブミ探しにチャレンジしてみてください!

高尾山山頂から発信!

のぶすま

「のぶすま」とは ムササビの古い呼び名です。




vol.68 季刊 2022年夏号

タヌキとアナグマは森の農家

高尾山で暮らす哺乳類のうち、タヌキとアナグマは見た目がよく似ている2匹です。 皆さんの中には、間違えて覚えている方もいらっしゃるのではないのでしょうか？ 本号ではそんな彼らの様々な特徴と自然界で担っている重要な役割についてご紹介します!

君ってタヌキ?アナグマ?

<p>タヌキ 英名 Japanese Raccoon Dog</p>  <p>目の周りから 頬にかけて黒色</p> <p>目の周りに縦長の 濃い茶色模様がある</p>	<p>アナグマ 英名 Japanese Badger</p> 
--	--

<p>イヌ科</p> <p>キツネやイヌが親戚にあたる</p>  <p>指は4本!高尾山内のぬかるみでよく見る</p>	<p>ぶんるい 分類</p> <p>実は全く違う!</p>	<p>イタチ科</p> <p>クマではなく、イタチが親戚!</p>  <p>指は5本!鋭い爪が穴掘りに大活躍!</p>
<p>すみか 住処</p> <p>習性に注目!</p>  <p>穴を掘って地下に巣を造る!里山や森林に生息</p>		

〜同じ穴の貉〜
古くなって使われなくなったアナグマの巣穴を、タヌキが使うことがあるんだ。ある日アナグマを狙っていた猟師さんが巣穴からタヌキが出てきたのを見て、一見関係がないようでも実は同類や仲間であることを例えた「同じ穴の貉」という言葉が生まれたみたいだよ!※諸説あり



高尾山の れまし vol.30

高尾山で八十八か所巡り

高尾山を歩いていて、赤い前掛けを付けた石像を見たことはありませんか？この石像が意味するものと、高尾山内で楽しめる八十八か所巡りについてご紹介します。

一号路沿いでよく見かける、赤い前掛けを付けた石像。「お地藏様が多いなあ」と思っていたが、実はお地藏様ではありません。石像一つひとつが、弘法大師をかたどった御影像なのです。弘法大師（≡空海）は、平安時代に真言宗を興したお坊さんです。遣唐使として唐へ渡った際に学んだ密教をもとに真言宗を興し、全国各地を行脚したと言われています。ここ、高尾山薬王院も真言宗のお寺の一つです。

山内の弘法大師像は、四国八十八か所霊場を模しています。もともと四国では修行僧が行うものとされていたようですが、江戸時代の中頃からは、全国から四国を訪れた人が弘法大師ゆかりの土地を巡るようになりました。それとともに、著名な霊場を模した札所巡りが全国で流行しました。

高尾山内に弘法大師様の御影像が置かれたのは、一八九九年のこと。第二十六世御山主志賀照林大僧正が四国八十八か所を巡礼した際に持ち帰った八十八か所の土を大師像の下に収め、高尾山八十八大師が建立されました。山内の八十八大師を巡ることで、四国八十八か所を巡ることと同じご利益を得られるのです。山内には一号路沿い、琵琶滝、蛇滝コースに御影像が建立されています。

以前から興味があったため、今年の冬に山内の八十八か所を巡りました。まず、一号路登山口にある薬王院別院不動院で、大師像の場所と詳細

案内が描かれた巡礼案内図を購入します。大師像にはそれぞれ番号とお寺の名前が刻まれています。案内図と照らし合わせながら歩くと、いつもの高尾山がロールプレイングゲームのように！一体ずつ御顔が違ったり、時折石仏の形ではない像もありました。また、蛇滝と琵琶滝周辺の一部の大師像は、立ち入れない場所に設置してあるため、見つけにくいものもあります。

八十八か所を巡る途中、蛇滝、不動院、琵琶滝の三カ所でスタンプを押して、薬王院の御護摩受付所へもついでと巡礼証が頂けます。この日は一日で全ての大師像を巡りました。蛇滝の往復が特に大変だったため、何日かに分けてお参りした方がゆっくりできておすすめです。

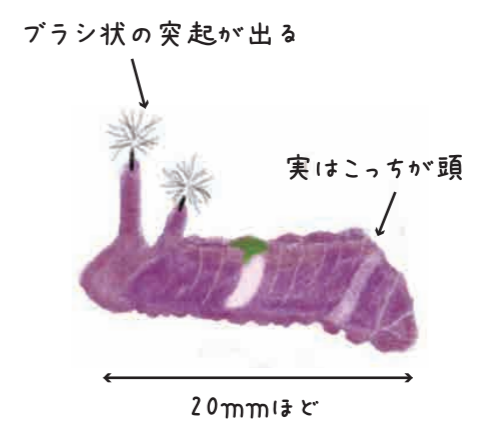
また、山内の八十八か所を巡る時間がない方には、薬王院境内の大師堂にある「高尾山八十八大師巡礼霊場」がおすすめです。太子堂の周りを一周することで、短時間で山内の八十八か所巡りをしたのとと同じ御利益が得られますよ。高尾山八十八大師を巡ることで、信仰の歴史を感じながら、昔の人が歩いた道のりを追体験することができました。

高尾山内にある御影像



〈解説員 かわまた〉

解説員の ちおし vol.26



角から線香花火！？

フジやクスなどのマメ科の花が好物で、その花と同じ紫色の体で上手に溶け込んでいる姿が見られます。ウサギ耳のような可愛らしい角を持ち、ずんぐりむっくりとしたフォルムが特徴的な幼虫です。この幼虫は、ユニークな威嚇行動を持っており、天敵が近づくと角から線香花火のようなブラシ状の突起を出し威嚇します。この個性的な幼虫をぜひ高尾山で探してみてください。

観察時期：6～9月
見られる場所：3号路、高尾山頂

〈解説員 うすい〉

タヌキとアナグマって何を食べているの？



※ 僕は縄張りの中を歩き回って、見つけた美味しそうなものを食べています。特に好きなのは木から落ちてきたり、頭が届く高さにあったりした果実かな～！



※ 我们是自慢の鋭い爪で穴を掘って食べられるものを探しているんだ。その中でも一番好きな食べものは、土の中からにゅるっと出てきたミミズだね！

＜主な食べもの＞

ジャノヒゲの実

センチコガネ類

ニホントカゲ

PICK UP!

高尾山ではタヌキの糞の中に輪ゴムが混ざっていることがあります。登山者が捨てた生ゴミを漁った際に食べてしまった物と考えられます。高尾山ではゴミは捨てずに持ち帰ってくださいね。



＜主な食べもの＞

ミミズ

アケビの実

セミの幼虫

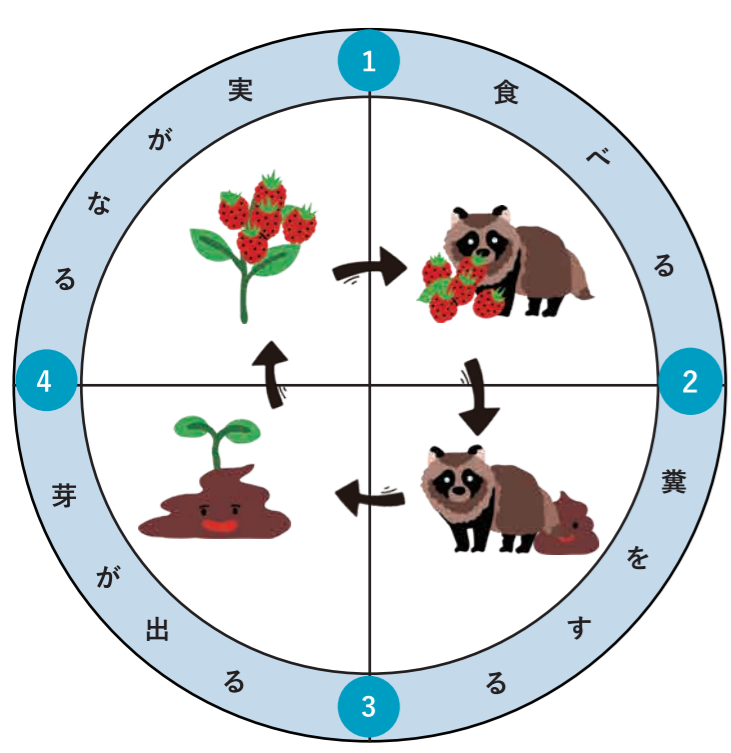
PICK UP!

最近、高尾山では餌を入れた容器が放置されているのを目にします。アナグマをはじめ、野生動物が人工物を食べると不健康にも繋がる恐れがあります。野生動物には餌を与えないでくださいね。



※タヌキとアナグマ似顔絵 参考：Plus Liv Co., Ltd. 「ハクビシンと似ている動物の見分け方」

高尾山でのタヌキとアナグマのお仕事〈種子散布〉



ため糞

去年(2021年)はビジターセンター裏にあるタヌキのため糞からイチゴの芽が出ていました！



モミジイチゴ

彼らのお仕事のおかげでモミジイチゴをはじめ、果実を実らせるたくさんの植物が高尾山に生育できています。

タヌキやアナグマに食べられた果実たちは、彼らのお腹の中をいながら旅をして、遠くの場所で糞として排出されます。糞に混じっていたタネたちは新天地で芽を出し樹となって、また新たな果実を実らせます。タヌキとアナグマは、果実のタネを遠くの場所に蒔いてくれる「森の農家」であり、豊かな高尾山の自然環境を維持する大切な役割の1つを担っています。



今回は見た目が似ているタヌキとアナグマには様々な特徴があること、また高尾山において彼らは「森の農家」のような存在であることをご紹介しました。高尾山はそんな彼らが暮らせるよう、食べ物などの自然環境が整っています。その一方で彼らは高尾山の自然の豊かさを保つことに種子散布という形で貢献しているのです。最後にはなりますが、タヌキとアナグマは自然のものを食べ、自然の中で静かに暮らしています。彼らと野外で出会えたとしても遠くから観察するだけに、決して餌を与えないで下さいね。

〈解説員：なかの〉